

益子家
91
-

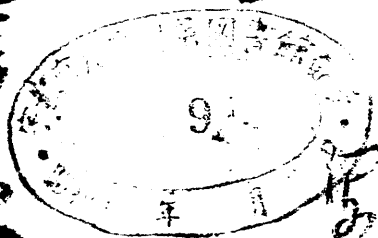
天保四癸丑歲

御用向控

春二月

紀信

五



中
下



二月

新也

一 杜平

一 杜平

一 杜平

一 杜平

一 杜平

一 杜平

一 杜平

一 杜平

一 知門内平のりる
一 少少のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる

同二

一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる

一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる

同三

一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる

同五

一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる
一 常のりる

移病下 内氏集稿
おちぬ 藤田氏
福田氏よりおちぬ
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金
一 藤田氏 定便名金

花 一巻

花 一巻

花 一巻

花 一巻

同也

一善事を思ふは

後多かる事なり

一其の善事なるは

徳を以て人を知る事なり

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

一其の徳を知るは

同也

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

一其の徳を知るは

徳を知る事なり

御教書に御覧の如
 く存じ候へども是れ
 代り申上る事な
 るに申上る物に
 候へども申上る
 事な候へども申
 上る事な候へども

國名史

二、
三、

何 氏

國子監

△ 王羲之草书

四十号

出月年平
福海書之
子名之月年

一、以今古合同先立之
即如心是
是所也
是所也

夕月

同市下 西

一西

一又

一

一

同

一

一

一

由

一

一

一

一

一

一

一

一

同

一

一

一

山崎氏

國書四目

藏田中後方

志館全後方

三後信現係

功全進言

日之

。國書四目

一、國書四目

二、國書四目

三、國書四目

四、國書四目

五、國書四目

六、國書四目

七、國書四目

八、國書四目

九、國書四目

行藏
知不足
學不厭

同治六年

一 務財上定厚名金
一 改志部下印

善田之

中興學堂

松平 齋

國書

此句係原書所無
 於無理子之
 吳郡周陽城
 熱食之天下
 亦不獨有
 亦不獨有

ふくはくはくはく

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

てつてつて

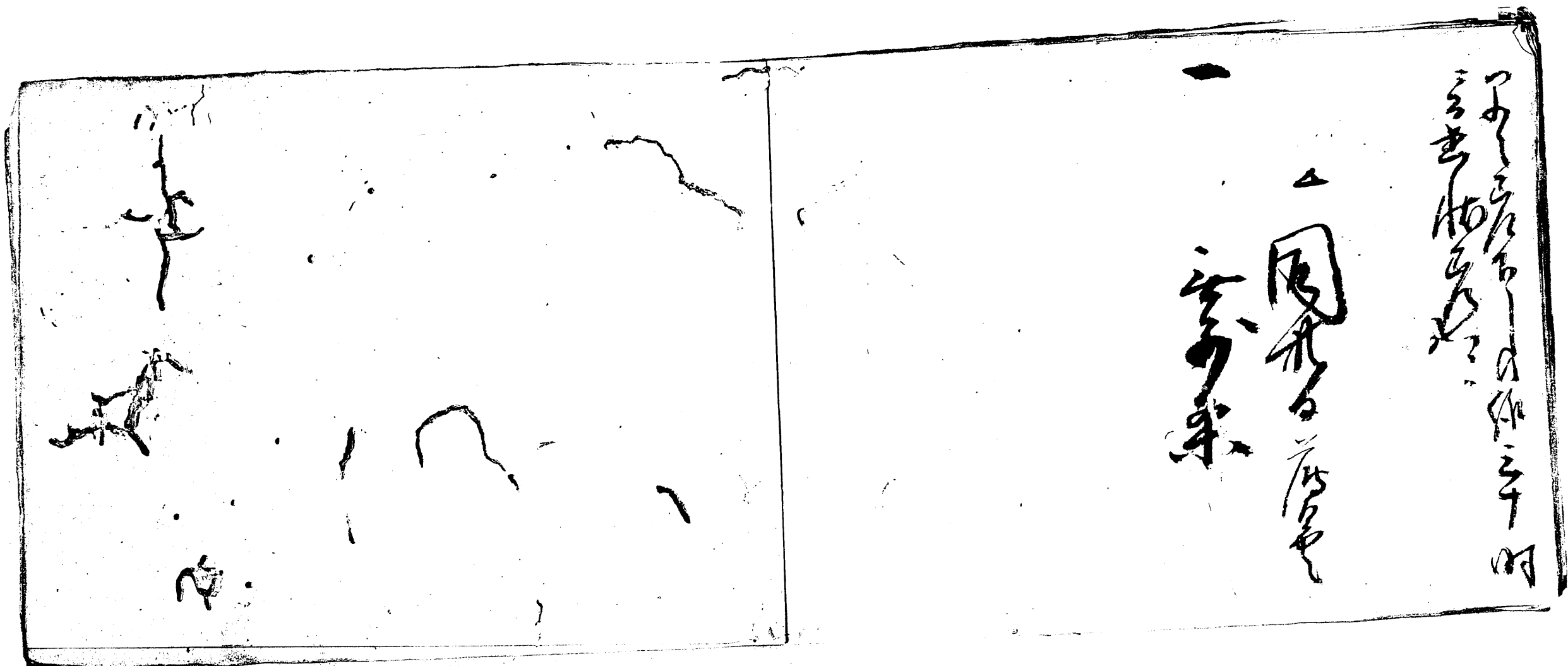
てつてつて

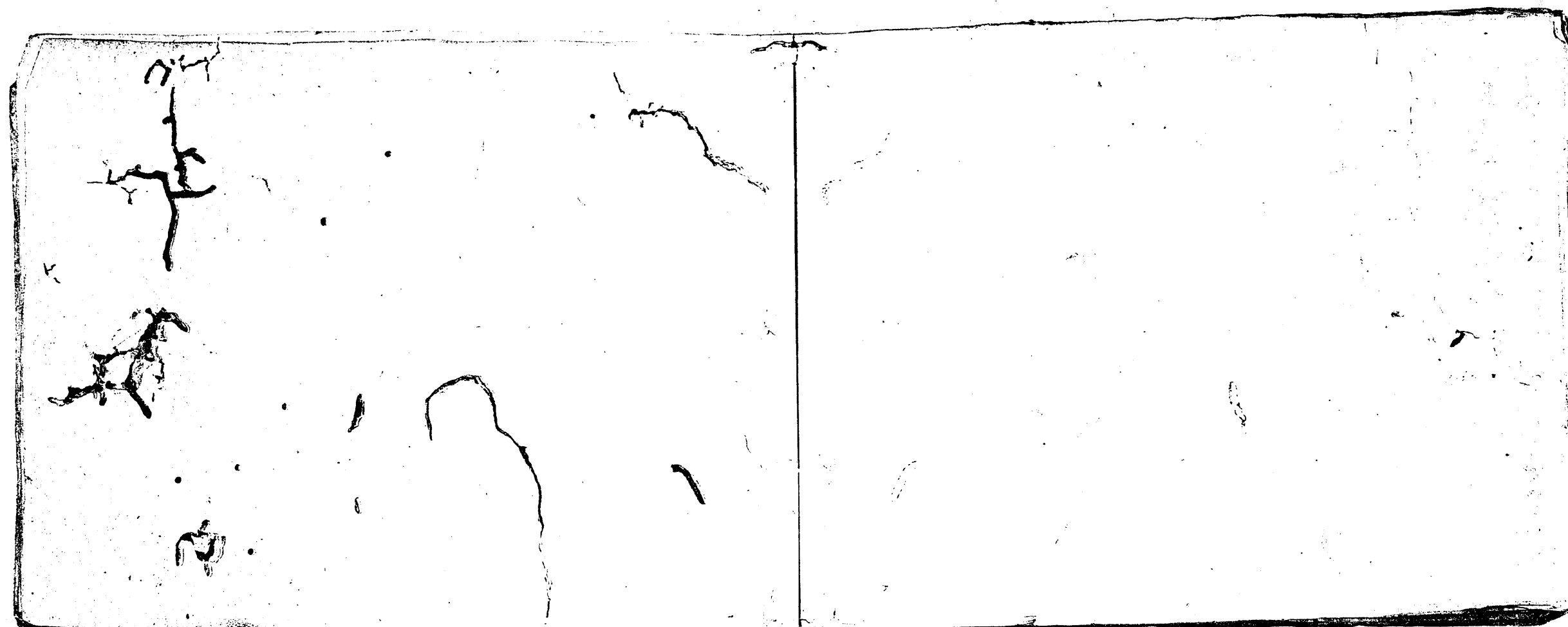
てつてつて

てつてつて

子之居也日修其德
之書也

國名
家





以下 5 葉余白

